

当院の心臓リハビリテーション 10年目を迎えて



医療法人社団うすい会 高陽ニュータウン病院
理学療法士 高岡みゆき
医師 立石博信

背景

<当院紹介>

高陽ニュータウン病院



広島県広島市安佐北区に設立

140床：一般病床90床（内、地域包括ケア病床 8床）
療養病床 50床（医療型）

診療科：内科、循環器内科、消化器内科、肝臓内科、
整形外科、脳神経内科、小児科、眼科、
放射線科、リハビリテーション科、人間ドック

リハ施設基準：心大血管リハ、脳血管リハ、
廃用症候群リハ、呼吸器リハ、
運動器リハ、がん患者リハ

当院は、2014年2月より心大血管リハビリテーション（以下心リハ）を開始。始めるに至る経緯は循環器内科医より安全に運動ができる環境をつくるようにと指示があり、準備を開始、施設基準の取得となった。

目的

10年目を迎え、心リハの施設基準を取得するに向けての準備や、施設基準取得後の取り組みについて報告する。

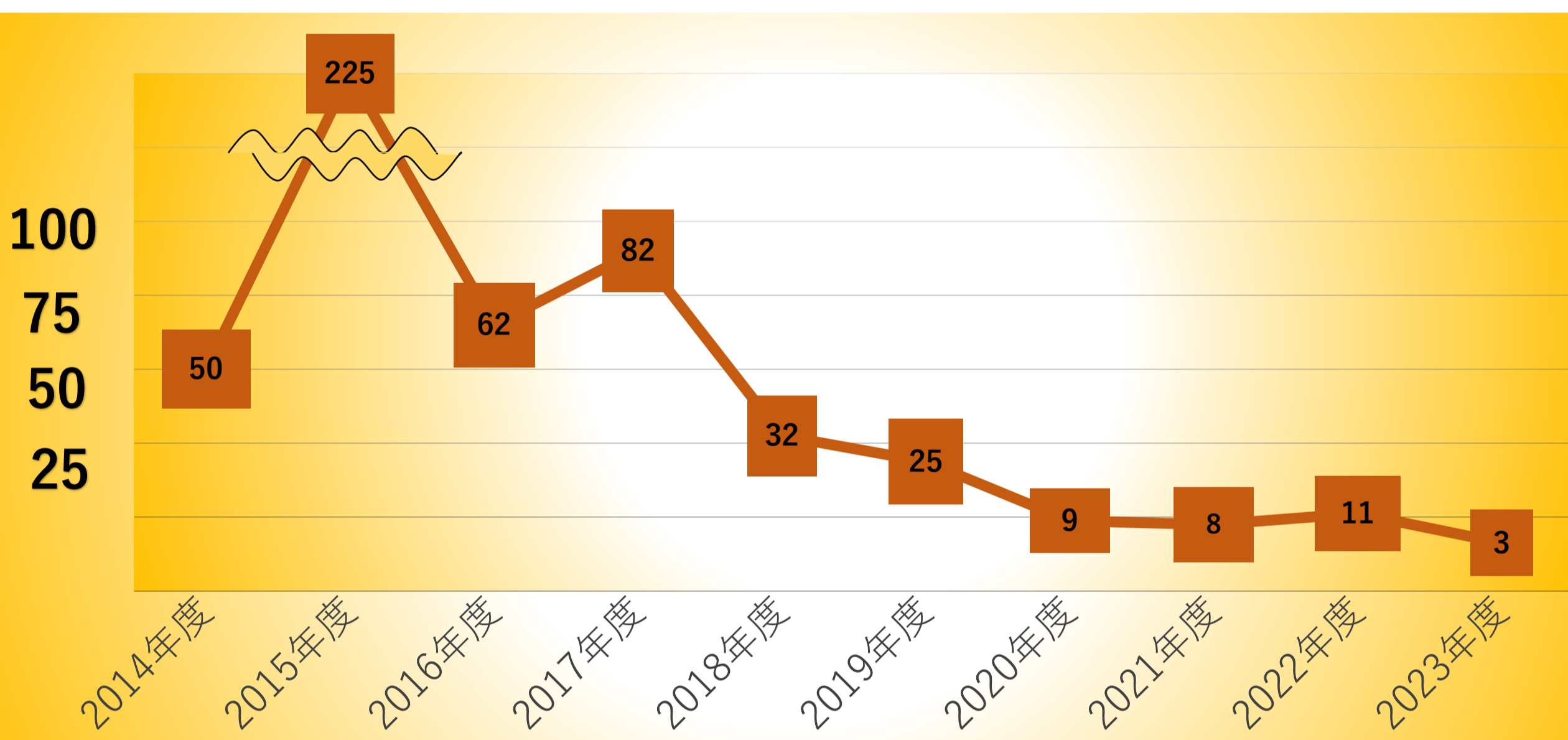
施設基準取得までの準備と運用

- ①日本心臓リハビリテーション学会へ参加「管理・運営」についての発表を聴講
- ②広島県内の心リハ研修に参加し、心リハに携わっている理学療法士に依頼し、病院見学を行い必要な物品と人材について確認する。
- ③必要な運動負荷装置等の購入またはレンタルなどの必要経費について医師や関連会社と相談。長期的な運営計画を立て、物品や対象患者様を検討し、試算を挙げる。
- ④心臓リハビリテーション指導士の育成する為の教育体制と専任療法士を増員していくための教育体制を構築
- ⑤多職種連携がとれるようにカンファレンスや広島県の事業への参加を行う。

その他、地域向けの教室やホームページ、院内ポスターの院内掲示等で開設の報告などをアピールした。

CPX・対象患者様の推移

CPXの件数



心リハ対象者を、外来患者様よりスタート。外来患者様にCPXを実施し、運動耐容能低下や運動習慣がない患者様に外来心リハを推奨して普及していく。

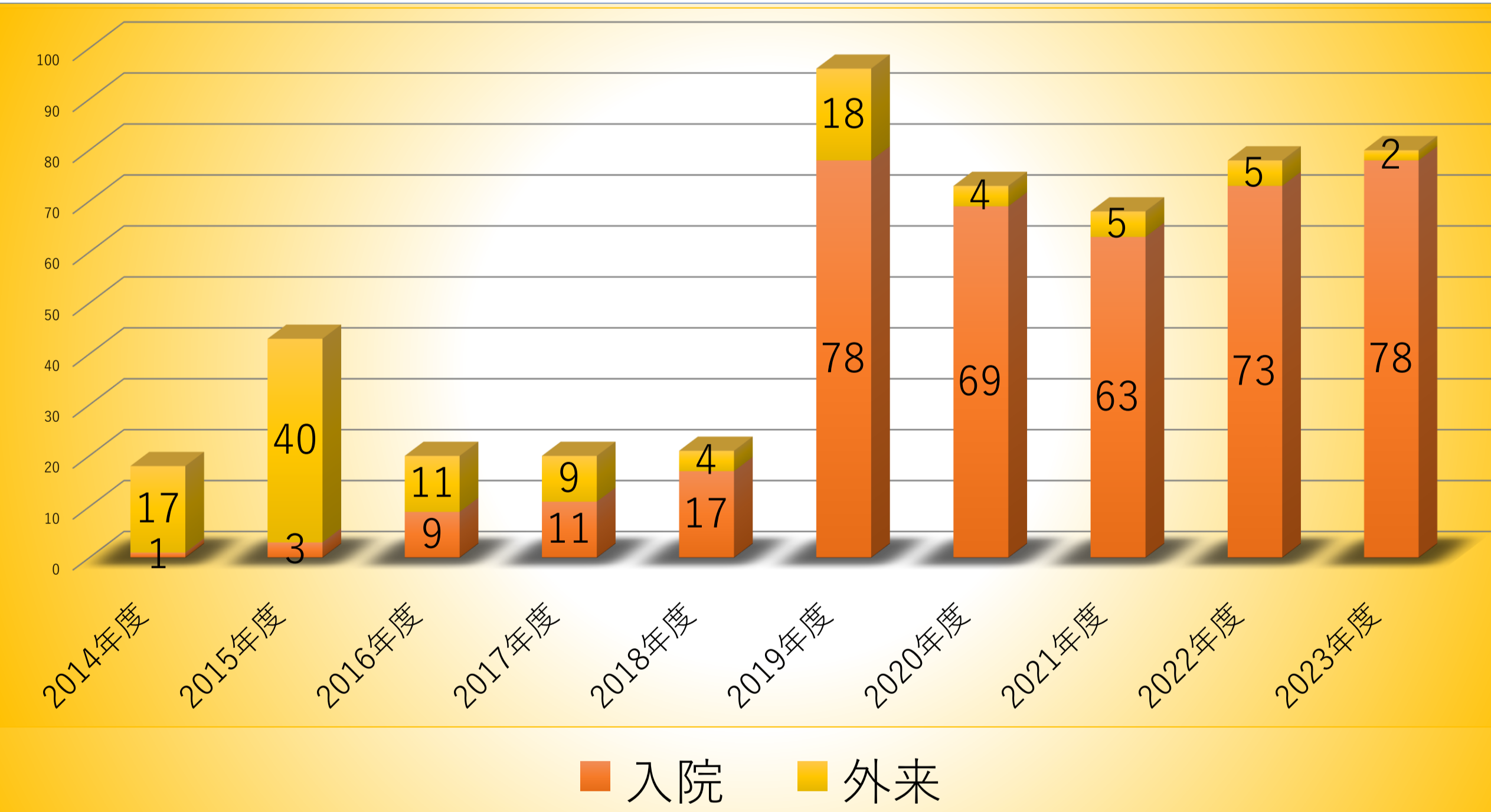
心リハ患者様の対象を、まずは外来患者様から始めることでコミュニケーションは良好で、ADLは自立されていた患者様の運動耐容能改善や精神的なフォロー、生活習慣の行動変容を促すリハビリテーションを多く経験できる結果となった。

開始当初は、心リハ専任療法士は2名配置。CPXを実施することで患者数も増加し2名では対応できなくなり、その後のCPXの対応が徐々に減少していった。

新規処方数

外来患者様からスタートした当院の心リハは、徐々に病棟にも浸透していき、入院患者様の依頼が増えていく。またコロナ感染症の流行によって外来心リハの中止期間もあり、入院患者様のリハ対応が増えていった。

また施設基準を取得し開始当初から勤務している療法士にも、心臓リハビリテーション指導士を取得することにより知識の向上も図れ、入院患者様で重症の患者様の依頼も対応可能となってきた。循環器内科医師のみでなく、内科医師からの依頼も増え、安定した処方となった。



療法士教育体制と専任療法士増員

<療法士の教育体制>

入職1年半後には専任療法士となるよう教育体制を構築

<院内研修>

- ①循環器内科医より週に1回、2～3か月の研修
（内容）心電図、不整脈、X線所見、CT所見、聴診と呼吸音
不整脈薬、血ガス等
- ②入職1年で吸引研修（座学、シュミレーター、実地研修）

<院外研修>

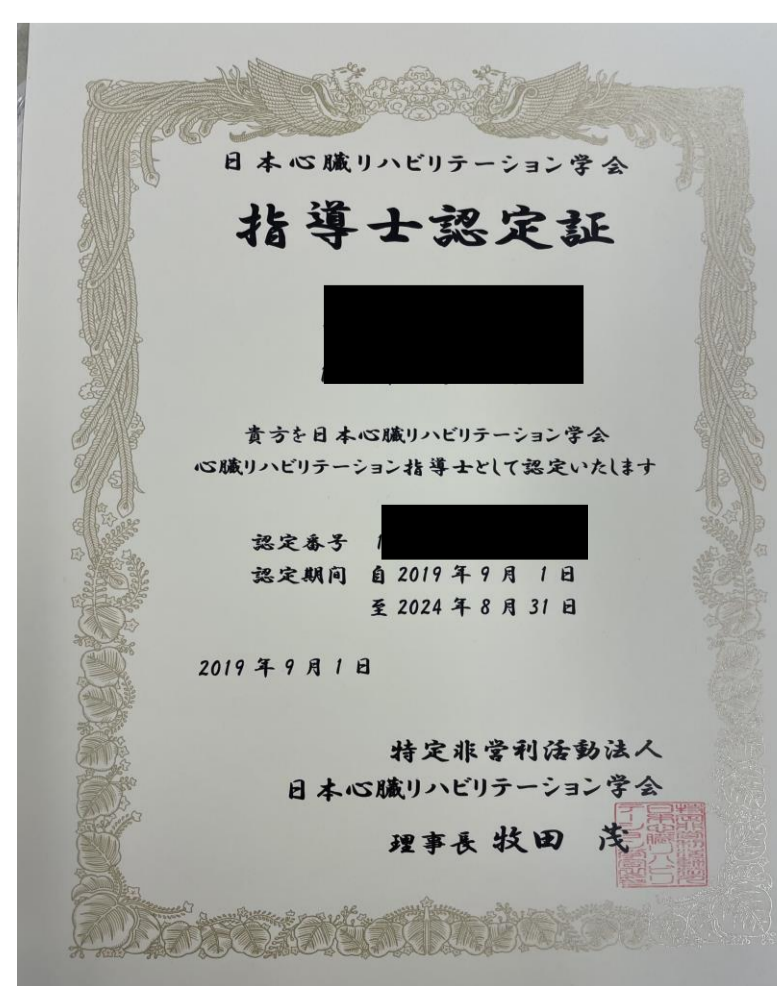
- ①心臓リハビリテーション学会の地方会への参加
- ②広島県内で開催される心不全研修への参加

※作業療法士に関しても同様に、指導を行い理学療法・作業療法が可能となった。

<心臓リハビリテーション指導士の取得>

2018年 1名
2019年 2名
2021年 1名
2022年 1名

※これまで5名の指導士免許の取得



多職種連携のために

2022年、広島県心臓いきいき推進事業へ、病院として心不全対応向上を図るように参加する。循環器カンファレンスを実施開始し、多職種で循環器患者様への対応向上を図っている。



Hiroshima Heart Health Promotion Project
広島県心臓いきいき推進事業

広島大学病院心不全センターホームページより

これからの課題

- ①設備投資の再契約やメンテナンス
- ②入院患者様からの外来リハへ移行が少ない
- ③心臓リハビリテーション指導士の育成と継続雇用
- ④多職種連携の充実

発表者：高岡みゆき (©) 立石博信

【利益相反の開示】

開示すべきCOI関係にある企業などはありません。